

情報工学基礎（鳥山先生回）レポート

2255013 長瀬 永遠

・ CSCW, CSCL について理解したことをまとめよ

CSCW, CSCL とは仕事や学業に対する協同活動をコンピュータによって支援すること。また、それらを目的とした手法に関する研究のことである。具体的には、非同期型のもので電子掲示板や電子メール、同期型のものではリアルタイムなチャットシステムやビデオ会議システムなどが挙げられる。また、同様のものとしてグループウェアという言葉がある。グループウェアとはグループによる知的創造活動を支援するためのソフトウェアやシステムのことで CSCW との違いは主題がソフトウェア業界などビジネスにある（グループウェア）のか学問分野にある（CSCW）のかということである。そのため、グループウェアはソフトウェアを用いた協同作業の効果や影響を研究し、適した手法を開発・評価することに主眼が置かれているが、CSCW ではグループウェアを含む情報通信技術の分析までを対象に入れ、組織やコミュニティにおける、認知科学、行動心理学、集団意思決定、経営学、社会学など幅広い分野にまたがって研究を行う。ただ、グループウェアも CSCW も根底にある目的はコンピュータのサポートによって仕事における協同を補助することであり、究極的な目的が仕事の収益を上げることであるのは共通している。そのため、どちらの分野でもいかにして業務の効率を上げ、生産性を向上させるかを突き詰めている点で目的は同じである。

インターネットが普及している現代において、グループウェアはコンピュータネットワーク環境で、人間がコミュニケーションや情報共有を行う仕組みという意味を持つことが多く、各人がそれぞれの役割を果たし共通の目的を達成することのできるソフトウェアというニュアンスで用いられる。これらのソフトウェアは今や私たちにとっても身近で、コロナが初めて流行した 2020 年には大学の講義をオンライン化するために Microsoft 社の teams が導入され、現在も講義に関する情報共有などの目的で広く使用されている。このようなことからも、近年のコロナ禍がきっかけで、CSCW, CSCL, グループウェアに対する需要が大幅に増し、社会的に注目が集まつたと感じる。

最後に、これは直接 CSCW, CSCL の内容ではないが、講義の中で扱われていた「コミュニケーションとは」というテーマについてまとめる。コミュニケーションは少なくとも二つの観点から分別できる。一つ目は目的である。この観点では目的型（ミーティングなど）と非目的型（井戸端会議）に分類される。二つ目は手段である。この観点では、言語か非言語かによって分けられる。また、非言語の中には様々な種類が存在し、準言語、身体的特徴、視覚的人工物、生理現象、空間処理、対人接触などが挙げられる。「学問分野の人間はモノの性能を上げることに終始しがちであるがただ性能が上がればいいというものではない」という講義での鳥山先生の言葉は個人的に好きで、前述の様々なコミュニケーションのどれをどう伝えるのか伝えないのかを考えることは重要だと感じる。